

基礎看護学

【科目の構成とねらい】

看護は人間を理解することで必要な支援が明らかになる。そのため、人間・看護・健康・生活・医療の基礎を学び、発展させることで、専門職としての資質を身につけることができる。

基礎看護学は、他の専門分野の基礎となる基礎的理論や基礎的看護技術を学ぶ位置づけとする。基礎看護学で学ぶ内容は他の専門分野の基盤であり、看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う内容とする。

基礎看護学の科目は、看護学概論・看護理論・ヘルスアセスメント論・生活援助論・人間関係成立・看護倫理・診療の補助技術論・クオリティ看護論の計 12 単位とした。また、臨床判断能力や倫理的判断・行動に必要な基礎的能力を養うため、演習を強化した組み立てとし、シミュレーションや ICT を活用した学習をとおして学ぶ。

「看護学概論」

看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割の重要性を認識できる内容とする。

「看護の概念」「看護の対象」「健康の概念」「看護の機能と役割」等で構成し、看護一般の概念や看護の本質について学ぶ内容とする。

「看護理論」

近代看護の創始者である、ナイチンゲールの看護の考え方ははじめ、代表的な諸理論を学び人間の理解を深めるとともに看護を考える力を養う内容とする。

「ヘルスアセスメント論」

患者の身体状況を把握できる基本的医学知識（フィジカルアセスメント）と技術を身につけ、健康状態の評価とマネジメントできる能力を育成する。

「看護倫理」

倫理的判断・行動の強化のため、1 単位と独立させた。演習により看護実践における倫理的意思決定についての思考判断能力を養う。

「生活援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

対象の安全で安楽な環境を整え、日常生活を支える基本となる看護技術を学び、確実に習得することで実践力の向上を目指す。内容は、形態機能学を踏まえて精選し、「活動休息・生活環境」「食事・排泄」「安楽・清潔・衣生活」を組み立てる。看護の対象を生活者として捉え、その日常生活に合わせた援助をするために必要な看護技術の基本を学ぶ。

「人間関係成立の技術」

対象となる患者・家族をはじめ地域・医療チーム内のメンバーとの関係構築に向けた実践的なスキルを目指す。コミュニケーション能力のさらなる強化を図るため、1 単位とし、さらに演習時間を充実する。

「診療の補助技術論」

薬物療法を安全かつ正確に実施しできる内容とし、「与薬」「検査」を組み入れる。また技術を提供するにあたり倫理的態度も養う。

「クオリティ看護論Ⅰ」

看護を科学的に展開するための思考のプロセスを学ぶものとする。

「クオリティ看護論Ⅱ」

臨床判断を行うための基礎的能力を養うために、健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護を学ぶ内容とする。事例に対してアセスメントをもとに、健康問題の解決を図るため、複数の技術を選択する判断をしながら、複数の援助技術を組み合わせて看護が提供できる内容とする。そし

て、各看護学への学習が効果的に繋がるようにシミュレーションを活用して学ぶ内容とする。

「クオリティ看護論Ⅲ」

先人の看護理論に学び、看護に対する考え方を深められるよう、看護研究の基礎について学び、研究的態度を醸成する。

【目的】

看護の対象である人間の生を受けてから生を終えるまでのライフサイクルと、健康の意義及び保健・医療・福祉に於ける看護の機能と役割を理解し、看護の実践力となる基礎知識・技術・態度を習得する。

【目標】

- 1 看護全般の概念を学び、看護の本質と位置づけと役割を理解する。
- 2 看護を実践する上での基礎となる知識と技術を習得する。
- 3 対象の健康障害を理解し、生活の状態に応じた看護の基本を理解する。
- 4 看護実践を科学的に展開する能力を養い、研究的態度を身につける。
- 5 対象の安全・安楽な看護を提供するための判断力と実践力の基礎を身につける。

【構成および計画】

<講義>

授業科目	単位数	学年別計画時期		
		1年	2年	3年
看護学概論	1	○		
看護理論	1		○	
ヘルスアセスメント論	1	○		
生活援助論Ⅰ	1	○		
生活援助論Ⅱ	1	○		
生活援助論Ⅲ	1	○		
人間関係成立の技術	1	○		
看護倫理	1	○		
診療の補助技術論	1		○	
クオリティ看護論Ⅰ	1	○		
クオリティ看護論Ⅱ	1	○		
クオリティ看護論Ⅲ	1			○

授業計画

科目名	看護学概論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 看護の概念、看護の対象、看護の機能及び役割を学び、看護の本質を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護の概念	看護の定義 ICN、日本看護協会、保健師助産師看護 師法 看護の概念 看護技術の概念	講義	専任教員*		
第 2 回		看護の変遷 古代・中世・近代	講義 演習	専任教員*		
第 3 回		看護の機能①	講義 演習	専任教員*		
第 4 回		看護の機能② ナイチンゲールの看護論	講義 演習	専任教員*		
第 5 回		看護実践へのアプローチ	講義	専任教員*		
第 6 回	看護の対象	看護の対象としての人間① 生活の概念図	演習	専任教員*		
第 7 回		看護の対象としての人間② 統合体としての人間 成長発達する人間	演習 講義	専任教員*		
第 8 回		生活者としての人間 生活・暮らすとは ライフサイクルと健康・生活	講義 演習	専任教員*		
第 9 回	健康の概念	健康の捉え方 健康と環境、健康と生活 (QOL) 健康とライフサイクル	講義 演習	専任教員*		
第 10 回		基本的権利としての健康 健康の実現・ヘルスプロモーション	講義	専任教員*		
第 11 回		予防の視点からみた健康 家族の生活と健康	講義	専任教員*		
第 12 回	看護の機能と 役割	看護ケア・ケアリング 職業としての看護	講義	専任教員*		
第 13 回		多職種連携(情報共有)、継続看護	講義	専任教員*		
第 14 回	看護活動の場 と役割	看護活動の場と看護の役割 専門職としての看護 看護の専門性 保健統計や歴史を踏まえた看護の展望	講義	専任教員*		
第 15 回	評価		試験			
テキスト 参考図書	看護学概論 医学書院 フロレンス・ナイティンゲール 看護覚え書き		評価 方法	筆記 100 点		
備考						

授業計画

科目名	看護理論		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 看護の理論を理解し、看護に対する考えを深めることができる。 2. 「その人らしく生きる」を支援するための理論を理解する。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>* 実務経験のある教員</small>	
第 1 回	看護理論の意義	看護理論の歴史の変遷 看護理論の種類		講義	専任教員*	
第 2 回	実践に必要な概念の理解	実践に必要な概念 中範囲理論の概要 認知行動理論、自己概念・自尊感情 ストレス・コーピング 役割理論・家族理論 コンフォート理論、価値・信念 発達課題論		演習	専任教員*	
第 3 回		主な中範囲理論と実践をつなぐ		演習	専任教員*	
第 4 回		看護理論と実践	主な看護理論の概要と実践をつなぐ① ヘンダーソン、ワトソン ベナー、オレム、ロイ、キング トラベルビー		演習	専任教員*
第 5 回	主な看護理論の概要と実践をつなぐ②		演習	専任教員*		
第 6 回	主な看護理論の概要と実践をつなぐ③		演習	専任教員*		
第 7 回	主な看護理論の概要と実践をつなぐ④		演習	専任教員*		
第 8 回	評価			試験		
テキスト 参考図書	やさしい看護理論 MC メディカ			評価 方法	筆記 60 点 レポート 40 点	
備考	履修時期としては、看護の基礎実習 I 終了後とする。					

授業計画

科目名	ヘルスアセスメント論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 看護の対象である人の健康状態を評価する方法を理解し、基本技術を習得する。 ※恒常性維持、筋骨格、意識状態、心理社会的、症状モニタリングやマネジメント含む					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護におけるヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントの意義と目的 ヘルスアセスメントにおける観察と視点 生命活動と呼吸・循環	講義	専任教員*		
第 2 回	バイタルサイン	フィジカルアセスメントに必要な技術 フィジカルイグザミネーションの基本技術	講義	専任教員*		
第 3 回		バイタルサインの観察とアセスメント①	講義	専任教員*		
第 4 回		バイタルサインの観察とアセスメント②	講義	専任教員*		
第 5 回		バイタルサインの観察とアセスメント③ 体温表・フローシートの記載と報告	講義	専任教員*		
第 6 回		バイタルサインの測定と記録・報告の実際 ①	校内 実習	専任教員*		
第 7 回		バイタルサインの測定と記録・報告の実際 ②	校内 実習	専任教員*		
第 8 回		フィジカル イグザミ ネーション を活用した 身体状態の 把握	系統別フィジカルアセスメント ① 呼吸器	講義	専任教員*	
第 9 回	系統別フィジカルアセスメント ② 循環器		講義	専任教員*		
第 10 回	系統別フィジカルアセスメント ③ 腹部、筋・骨格系		講義	専任教員*		
第 11 回	系統別フィジカルアセスメント ④ 神経系・感覚器		講義	専任教員*		
第 12 回	フィジカルイグザミネーションの実際 ① 呼吸器系・循環器系・血管系		校内 実習	専任教員*		
第 13 回	フィジカルイグザミネーションの実際 ② 呼吸器系・循環器系・血管系		校内 実習	専任教員*		
第 14 回	フィジカルイグザミネーションの実際 ③ 腹部・神経系		校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価		試験			
テキスト 参考図書	専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえる Vol 3 フィジカルアセスメント メデックメディア		評価 方法	筆記 100 点		
備考						

授業計画

科目名	生活援助論Ⅰ（活動休息・生活環境）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 日常生活における活動・休息の意義を理解し、援助技術を習得する。 2. 生活環境を整える意義を理解し、援助技術を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	日常生活を援助する意義	人間の日常生活行動 日常生活援助技術の概念 看護援助の基本的機能と日常生活援助	講義	専任教員*		
第 2 回	活動・休息の援助	活動の意義 活動の援助に必要な知識	講義	専任教員*		
第 3 回		身体の動かし方・触れ方 基本肢位・良肢位 ボディメカニクス	校内 実習	専任教員*		
第 4 回		休息の意義 休息（睡眠）の援助に必要な知識	講義	専任教員*		
第 5 回		体位変換・ポジショニング ① 体位変換と基本の型	校内 実習	専任教員*		
第 6 回		体位変換・ポジショニング ② 体位変換と基本の型・車椅子移乗	校内 実習	専任教員*		
第 7 回		車椅子・ストレッチャーの移乗・移送	校内 実習	専任教員*		
第 8 回		安全・安楽な生活 環境の調整	環境の概念 療養環境調整における看護師の役割	講義	専任教員*	
第 9 回	患者を取り巻く療養環境 療養環境のアセスメント		講義	専任教員*		
第 10 回	ベッドメイキング		校内 実習	専任教員*		
第 11 回	療養環境の整備（環境整備）		校内 実習	専任教員*		
第 12 回	臥床患者のシーツ交換に必要な知識 療養環境の観察から考える患者の個別性		講義	専任教員*		
第 13 回	臥床患者のリネン交換		校内 実習	専任教員*		
第 14 回	日常生活を整える環境整備 事例に合わせた環境整備		校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価		試験			
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院		評価 方法	筆記 100 点		
備考						

授業計画

科目名	生活援助論Ⅱ（食事・排泄）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	日常生活における食事・排泄の意義を理解し、援助技術を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	食事・栄養の援助	食事の意義 健康段階に応じた食事 食生活における看護師の役割	講義	専任教員*		
第 2 回		栄養状態のアセスメント 食欲・摂食能力のアセスメント	講義	専任教員*		
第 3 回		自尊心・価値観を尊重した食事の援助方法	講義	専任教員*		
第 4 回		食事介助 ① 座位・ファウラー位での食事介助	校内 実習	専任教員*		
第 5 回		食事介助 ② (口腔ケア含む)	校内 実習	専任教員*		
第 6 回		食事援助を受ける患者の心理 食事を継続するための援助 栄養サポートチーム (NST) の役割	講義	摂食嚥下認定 看護師		
第 7 回	排泄の援助	排泄の意義 排泄と健康との関係 自然な排泄の援助方法 排泄行動の選択と援助の決定 感染予防	講義	専任教員*		
第 8 回		便器・尿器を用いた排泄援助 ① 尿意を訴えた際の排泄援助	校内 実習	専任教員*		
第 9 回		便器・尿器を用いた排泄援助 ② 尿意を訴えた際の排泄援助と陰部洗浄	校内 実習	専任教員*		
第 10 回		自然な排泄が困難な人への援助①	講義	専任教員*		
第 11 回		自然な排泄が困難な人への援助②	講義	専任教員*		
第 12 回		浣腸・摘便	校内 実習	専任教員*		
第 13 回		導尿 ① 一時的導尿・持続的導尿	校内 実習	専任教員*		
第 14 回		導尿 ② 一時的導尿・持続的導尿	校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価		試験			
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護過程に沿った対症看護 第5版 学研メジカル秀潤社		評価 方法	筆記 100 点		
備考						

授業計画

科目名	生活援助論Ⅲ（清潔・衣生活・安楽）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 日常生活における清潔・衣生活の意義を理解し、援助技術を習得する。 2. 看護における安楽の意義と方法が理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	清潔・衣生活の 援助	清潔・衣生活の意義と目的 清潔状態のアセスメント	講義	専任教員*		
第 2 回		衣生活のアセスメント 衣生活の条件と適切な病衣の選択 衣生活の援助技術	講義	専任教員*		
第 3 回		衣生活の援助の実際 寝衣交換	校内 実習	専任教員*		
第 4 回		入浴できない場合の清潔援助① 清潔の援助技術 清潔援助の基本	講義	専任教員*		
第 5 回		清拭の基本 安全で安楽な湯温の提供と清拭方法	演習			
第 6 回		清潔援助の実際 全身清拭 ①	校内 実習	専任教員*		
第 7 回		清潔援助の実際 全身清拭 ②	校内 実習			
第 8 回		入浴できない場合の清潔援助②	講義	専任教員*		
第 9 回		清潔援助の実際 足浴	校内 実習	専任教員*		
第 10 回		清潔援助の実際 洗髪 ①	校内 実習	専任教員*		
第 11 回		清潔援助の実際 洗髪 ②	校内 実習	専任教員*		
第 12 回			その人の日常生活に合わせた清潔の援助	演習	専任教員*	
第 13 回	安楽を提供する 技術	安楽の意義 安楽を阻害する原因のアセスメント 安楽を提供する援助方法	講義	専任教員*		
第 14 回		その人の日常生活に合わせた安楽の援助 (事例を通してシミュレーション)	校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価		試験			
テキスト 参考図書	専門分野Ⅰ基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院			評価 方法	筆記 100 点	
備考						

授業計画

科目名	人間関係成立の技術		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	看護における人との関係構築に向けたコミュニケーションの基礎的な知識と技術を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	コミュニケーションの意義と目的	看護におけるコミュニケーションの意義と目的	講義	専任教員*		
第 2 回	看護における関係構築のためのコミュニケーションの基本	接近的コミュニケーションの基本技術	講義	専任教員*		
第 3 回		接近的コミュニケーションの実際	演習	専任教員*		
第 4 回	看護における効果的なコミュニケーション	効果的なコミュニケーションの基本技術	講義	専任教員*		
第 5 回		効果的なコミュニケーションの実際 傾聴・受容・共感 ①	校内 実習	専任教員*		
第 6 回		効果的なコミュニケーションの実際 傾聴・受容・共感 ②	校内 実習	専任教員*		
第 7 回		情報収集の技術と説明の基本技術	講義	専任教員*		
第 8 回		情報収集の技術と説明の技術の実際	校内 実習	専任教員*		
第 9 回	医療におけるコミュニケーション	医療におけるコミュニケーションの基本技術 インフォームドコンセントと看護師の役割 グループでのコミュニケーション	講義	専任教員*		
第 10 回		医療におけるコミュニケーションの実際 報告・交渉・調整	校内 実習	専任教員*		
第 11 回		カンファレンスの運営	校内 実習	専任教員*		
第 12 回	コミュニケーションに障害のある人への対応	コミュニケーションの障害とは	講義	専任教員*		
第 13 回		コミュニケーションに障害ある人への対応 ①	校内 実習	専任教員*		
第 14 回		コミュニケーションに障害のある人への対応 ②	校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価		試験			
テキスト 参考図書	専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院			評価 方法	筆記 100 点	
備考						

授業計画

科目名	看護倫理（看護師としての倫理）		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	看護倫理について理解し看護師としての責任を理解する。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	倫理と生命倫理	倫理とは 道徳・法律 生命倫理 医療倫理 ケアの倫理 看護における倫理 専門職と倫理		講義	専任教員*	
第 2 回	看護倫理と 倫理的な概念	患者の権利 自己決定、告知 患者の権利擁護 個人情報保護		講義	専任教員*	
第 3 回		意思決定を支援する技術 ケアリング ナラティブアプローチ 受容、傾聴、共感 エンパワーメント		講義	専任教員*	
第 4 回	倫理的な問題の アプローチ	医療における倫理問題① 個人情報に関する法的責任 医療における個人情報保護法とガイドライン 看護とプライバシー 看護師の守秘義務		講義	外部講師	
第 5 回		医療における倫理問題② 倫理的葛藤 患者自身の治療選択を支える看護 医療・看護の過誤事例 倫理問題 倫理的な問題へのアプローチ 倫理的な問題を解決するプロセス		講義	外部講師	
第 6 回	看護実践におけ る倫理的な意思決 定の実際	グループワークとディスカッションによる 事例検討①		演習	専任教員*	
第 7 回		グループワークとディスカッションによる 事例検討②		演習	専任教員*	
第 8 回	評価					
テキスト 参考図書	看護学テキスト NiCE 看護倫理 南江堂 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [I] 看護学概論 医学書院 よくわかる看護師の倫理綱領 照林社			評価 方法	筆記 100 点	
備考						

授業計画

科目名	診療の補助技術論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 薬物療法の意義と安全、確実に予約する必要性を理解し、基礎的な知識・技術を習得する。 2. 検査における看護師の役割を理解する。 3. 輸血における看護師の役割を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	薬物療法と看護	与薬の基礎知識 薬物についての基本的知識 与薬時の看護者の役割	講義	外部講師		
第 2 回		内用薬・外用薬の与薬と援助方法	講義	外部講師		
第 3 回		経口与薬・直腸内与薬の校内実習	校内 実習	外部講師		
第 4 回		注射 注射の基礎知識	講義	専任教員*		
第 5 回		注射 注射の準備	校内 実習	専任教員*		
第 6 回		注射 注射の実施方法	講義	専任教員*		
第 7 回		注射 筋肉注射・皮下注射	校内 実習	専任教員*		
第 8 回		点滴病脈内注射 注射の基礎知識	講義	専任教員*		
第 9 回		点滴静脈内注射の準備・実施 ①	校内 実習	専任教員*		
第 10 回		点滴静脈内注射の準備・実施 ②	校内 実習	専任教員*		
第 11 回		薬物療法と安全	演習	専任教員*		
第 12 回	輸血療法と看護	輸血療法の基礎知識 看護師の役割	講義	臨床輸血 認定看護師		
第 13 回	診療・検査に 伴う看護	診療と看護 診察の介助の目的 診察時の体位と看護	講義	外部講師		
第 14 回		検査と看護 生体検査と検体検査 生体情報のモニタリング	講義	外部講師		
第 15 回	評価	技術テスト				
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術 II 医 学書院 別巻 臨床検査 医学書院		評価 方法	筆記 80 点 実技 20 点		

授業計画

科目名	クオリティ看護論 I		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 看護過程の基礎知識を理解する。 2. その人らしい生活を支える看護を科学的思考に基づいて展開する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護過程	看護過程の意義と必要性	講義	専任教員*		
第 2 回		看護過程に必要な知識 背景となる理論	講義	専任教員*		
第 3 回	アセスメント	アセスメントの考え方 ① 情報収集、情報の整理	講義	専任教員*		
第 4 回		アセスメントの考え方 ② 情報の分析・解釈	講義	専任教員*		
第 5 回		アセスメントの考え方 ③ 全体像・関連図	講義	専任教員*		
第 6 回	看護問題の 明確化	看護問題の明確化 原因・誘因・症状・徴候 自己管理能力や対象のつよみ	講義	専任教員*		
第 7 回	計画立案	看護計画の立案 観察計画・援助計画・教育計画	講義	専任教員*		
第 8 回	実施	看護の実践の意義 優先順位と判断 記録・報告	講義	専任教員*		
第 9 回	評価	看護計画の評価	講義	専任教員*		
第 10 回	事例展開	情報整理	演習	専任教員*		
第 11 回		アセスメント	演習	専任教員*		
第 12 回		問題の明確化	演習	専任教員*		
第 13 回		計画立案	演習	専任教員*		
第 14 回		実施・評価	講義・ 演習	専任教員*		
第 15 回	評価		試験			
テキスト 参考図書	専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえる Vol4 看護過程の展開 メディックメディア 看護過程に沿った対症看護 第 5 版 学研メジカル秀潤社		評価 方法	筆記 65 点 レポート 35 点		
備考						

授業計画

科目名	クオリティ看護論Ⅱ		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 看護の実践における的確な判断と適切な看護技術の根拠の必要性を理解する。 2. 適切な看護を提供するための臨床判断の基礎的能力を身につける。					
回	単元	内容		形式	担当教員	
第 1 回	看護の実践	経過別・症状別看護 急性期・回復期・慢性期・終末期の看護		講義	専任教員*	
第 2 回	救急の状況と 看護	救急の状況とは 救急法と看護		講義	認定看護師 など	
第 3 回	救急状況にあ る患者の看護	救急法の実際① 心肺蘇生法		校内 実習	認定看護師 など	
第 4 回		救急法の実際② AED の使用方法		校内 実習	認定看護師 など	
第 5 回		救急法の実際③ 止血法		校内 実習	認定看護師 など	
第 6 回		救急法の実際 外傷時の応急処置		校内 実習	認定看護師 など	
第 7 回	臨床判断	臨床判断モデル		講義	専任教員*	
第 8 回	臨床判断に必 要な力	状態変化に対する気づきと解釈とは 形態機能学等の知識を活用した看護技術		講義	専任教員*	
第 9 回		症状・状態に応じた対応と振り返りとは		講義	専任教員*	
第 10 回	臨床判断に基 づく看護技術	状態変化に対する気づきと解釈 (例;呼吸困難)		講義 演習	専任教員*	
第 11 回		症状・状態にあわせた看護技術 (酸素吸入、ネブライザー、他)		校内 実習	専任教員*	
第 12 回	事例展開	臨床判断の基礎 事例を用いた展開 ① (気づきと解釈)		講義 演習	専任教員*	
第 13 回		事例を用いた展開 ② (対象の症状・状態に応じた看護の実践)		校内 実習	専任教員*	
第 14 回		事例を用いた展開 ③ (看護実践の振り返り)		校内 実習	専任教員*	
第 15 回		評価		試験		
テキスト 参考図書	専門分野Ⅰ基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 専門分野Ⅰ基礎看護学〔4〕臨床看護学総論 医学書院 別巻 救急看護学 医学書院			評価 方法	筆記 100 点	
備考	校内実習・演習では、呼吸困難・発熱・浮腫・排尿障害などの事例で展開する					

授業計画

科目名	クオリティ看護論Ⅲ（看護研究）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	3 年次
科目 目標	看護研究の意義と方法を理解し、実践した看護を振り返る。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護研究の基礎	研究の意義 研究倫理 看護研究の方法、研究プロセス	講義	専任教員*		
第 2 回		研究における文献検索 文献検索の目的・方法	講義	専任教員*		
第 3 回		研究論文の読み方 研究論文のクリティーク	講義	専任教員*		
第 4 回	ケーススタディ の基礎	論文のまとめ方 論文の読み方・論文の書き方 論文作成上の留意点	講義	専任教員*		
第 5 回		研究発表 抄録の書き方 発表の方法	講義	専任教員*		
第 6 回	ケーススタディ の実際	論文（ケーススタディ）の作成① 文献検索	演習	専任教員*		
第 7 回		論文（ケーススタディ）の作成② テーマの焦点化	演習	専任教員*		
第 8 回		論文（ケーススタディ）の作成③	演習	専任教員*		
第 9 回		論文（ケーススタディ）の作成④	演習	専任教員*		
第 10 回		論文（ケーススタディ）の作成⑤	演習	専任教員*		
第 11 回		論文（ケーススタディ）の作成⑥	演習	専任教員*		
第 12 回		ケーススタディの発表 ①	演習	専任教員*		
第 13 回		ケーススタディの発表 ②	演習	専任教員*		
第 14 回	研究発表の実際	学術集会への参加 ①	学会 参加	専任教員*		
第 15 回		学術集会への参加 ②	学会 参加	専任教員*		
テキスト 参考図書	系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野Ⅰ 基礎看護学[Ⅰ]看護学概論 別冊 看護研究	医学書院 医学書院	評価 方法	評価表に基づく	
備考	学術集会に参加できない場合は、他の方法で学習する。					